



【釜山支店】

韓国スタートアップ戦国時代 ～後編～

1. はじめに

前回、韓国スタートアップ戦国時代～前編～では、韓国内でのスタートアップに対する投資状況、政府等の支援状況、韓国ユニコーン企業（時価総額※10億米ドル以上かつ、非上場の企業）の概要についてお伝えしました。

スタートアップの特徴の一つとして「従来になかったビジネスモデル」ということが挙げられていますが、実はその殆どは「身近な不便さ」を解消することから始まっています。

今回は、身近な不便さを解消し、ユニコーン企業にまで成長した韓国スタートアップ企業を3社取り上げ、ご紹介したいと思います。

※非上場企業の時価総額は、上場時の株価予想（目標）等の指標を基に、企業と投資家間で形成される。

2. スタートアップ事例①「クーパン」

2015年、ソフトバンクグループが Forward Ventures, LLC※1へ、10億米ドルの投資を決定したことが話題となりました。2018年には更なる成長に向け、20億米ドルの追加投資支援を行っています。

Forward Ventures, LLCは、2013年に日用品等のEC（オンライン小売）運営会社としてクーパン株式会社（以下、クーパン社）を設立しまし

た。従来、同業者の課題が、運送会社等への外注へ依存せざるを得ず、物流効率が悪いことに着目し、AI（人工知能）技術等を応用した独自の配送サービス※2を確立しました。

2014年には注文翌日中に配送まで完了する「ロケット発送」サービスを開始し、そのスピード感が韓国人の気質に合い、売上高を急拡大してきました。米国および日本、韓国国内等から調達した資金の大半を物流システム構築に投資し続けており、2018年には生鮮食品等を翌日朝までに配送するサービスを開始し、2019年には食品宅配業への参入を発表する等、物流ノウハウを武器に事業の多角化を進めています。

一方で、プロモーション活動および配送インフラ整備を優先した結果、赤字経営が続い

【写真】クーパン商品購入イメージ



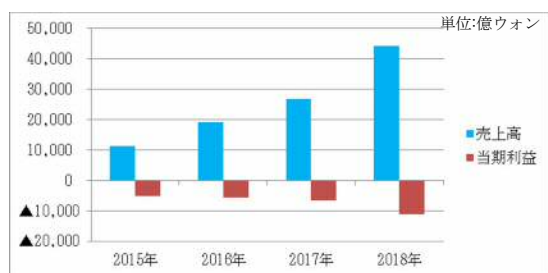
出典:クーパン HP

ており、更には返品体制等の事後対応の不備が指摘される等、今後安定した事業継続を図るためには、解決すべき課題が多くある状況です。

※1 現 Coupang, LLC (2016年に名称変更)

※2 韓国主要拠点に自社倉庫を設置し、クーポン社が予め購入した商品を貯蔵。自社専用配達員(クーポンマン)の雇用やAIでの需要予測を駆使した在庫管理により、スピーディなオペレーションを実現。

【図表1】クーポン社の業績推移



出典:金融監督院電子公示システム

【写真】クーポン社物流倉庫



出典:ポリニュース

3. スタートアップ事例②「ウーワブラザーズ」

日本では、2017年に米国ウーバー社が飲食店料理の出前サービス「ウーバーイーツ」のサービスを開始したことが話題となり注目されていますが、同分野について韓国では、2010年に株式会社ウーワブラザーズ(以下、ウーワ社)が「ペダル(≒出前)の民族」というアプリケーションサービスを開始しており、韓国人の人気を集めています。

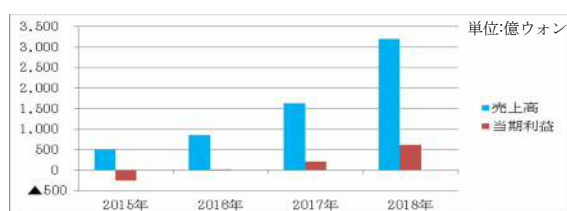
ペダルは、韓国では古くから頻りに利用されていましたが、注文者が電話等で直接飲食店に配達を依頼し、飲食店側も自前で配達する必要があったため、飲食店繁忙時には対応が難しいことが課題でした。

ウーワ社は、アプリケーションを通じて注文、配達、決済を結びつけることで課題解決を図りました。飲食店に注文が入ると同時に配達員(自社雇用およびフリーランス)の手配がなされるため、飲食店側は配達のことを考える必要がなくなりました。

利便性の良さが利用者の支持を集めると同時に、加盟飲食店に対する手数料も定額(月額80,000ウォン≒7,056円)のみであることから加盟飲食店からの評価も高く、差別化を実現しています。

50%を超える市場シェアを背景にウーワ社の売上高は過去3年間、年率150%超の伸長を続けていますが、食品配達時のトラブル、個人情報保護体制の脆弱さ等が指摘されており、今後事業を継続・拡大していく上での課題を抱えています。

【図表2】ウーワ社の業績推移



出典:金融監督院電子公示システム

【写真】ペダルの民族ロゴ



出典:ウーワ社 HP

4. スタートアップ事例③「ビバリパブリカ」

金融分野においても、成長を続けているスタートアップ企業があります。株式会社ビバリパブリカ（以下、ビバ社）です。韓国では通常、金融機関が提供するインターネットバンキングを利用する場合、ログインパスワードに加え公認認証書^{※1}が必要となり利便性が良くないことが課題でした。ビバ社は課題解決のため、2015年に簡易送金アプリケーション「トス」を開発し、サービスを開始しました。

トスを利用した送金の際に必要なものは送金先の電話番号のみであり、口座番号を準備する必要がありません^{※2}。また、金融機関と提携しているため、送金にかかるスピードも平均10～30秒と早く、その他の簡易送金サービスとの差別化が図られています。

1日に送金可能な金額の制限があり^{※3}、全ての金融機関での取引が可能ではないことから、既存の金融機関が提供するインターネットバンキングと比較すると取引内容に制約がある状況ではありますが、若年層、少額送金利用者を中心にその手軽さ、スピーディさから利用者数は増加しています。

【図表3】ビバ社の略歴

2013年	会社設立
2015年	「トス」サービス開始
2016年	グーグルプレイストア「App of the year」獲得
2018年	登録者数8百万人突破

2019年には累計ダウンロード数が2千万件を突破しました（うち、月1回以上の利用者は約300万人）。

売上高は顧客基盤の拡大によって年間200%程度伸長していますが、現在は金融機関に支払う手数料の影響で採算割れの状態が続いています。保険の販売や証券売買仲介等へのサービス拡大による早期の収支改善が、ビバ社の課題となっています。

※1 公認認証書…本人確認の為に発行される。媒体は紙や生体認証等、発行機関によって異なる。

※2 受取人にSMS（ショートメッセージサービス）でメッセージが届き、受取人が入金口座を入力。本人確認手続後、入金する仕組み。

※3 送金限度額（1日）は、最大1,000万ウォン（≒882千円）。また手数料は月10件まで無料。以降、1件あたり500ウォン（≒44円）の手数料がかかる。

【図表4】ビバ社業績推移



出典：金融監督院電子公示システム

【写真】トス利用イメージ



出典：ビバ社 HP

5. おわりに

韓国にあるスタートアップ企業の多くは身近にある不便に目を向け、「どうやったら」解消できるのかという視点で、ビジネスモデルを形にし、成長を続けています。

しかし、スタートアップ企業は、その性質上事業拡大に経営資源をすべて集中させるため、経営上の問題が生じた際の解決力に課題を持っています。そのため、事業継続、拡大のためには問題解決のノウハウを有する機関および企業のサポートが必要不可欠になっています。

韓国ではスタートアップ企業支援のため、外国人投資についても積極的な受け入れ態勢を整備しています。新しい世の中を創り出すべく奮闘している韓国スタートアップ企業を支援するための投資や、日本のスタートアップ企業との協業を、一度ご検討されてみてはいかがでしょうか。ご興味がありましたら、是非一度当店までご連絡をお願いいたします。

(山口銀行釜山支店 小林 正典)

【参考文献】

クーパン HP

<https://www.coupang.com/>

ペダルの民族 HP

<http://www.baemin.com/>

トス HP

<https://toss.im/>

金融監督院決算公示システム

<http://dart.fss.or.kr/>

ソフトバンク株式会社報道資料 (2015)

https://group.softbank/corp/news/press/sb/2015/20150603_02/

韓国経済

<https://www.hankyung.com/economy/article/2019090884681>

ポリニュース

<http://www.polinews.co.kr/news/article.html?no=420473>

クーパン、ペダルの民族、トス企業紹介

<https://namu.wiki/w/%EB%82%98%EB%AC%B4%EC%9C%84%ED%82%A4:%EB%8C%80%EB%AC%B8>

マネートゥデイ

<https://news.mt.co.kr/mtview.php?no=2019071217253855380>